

言語

名古屋大学日本語教育研究グループ編

A Course in Modern Japanese
[Revised ed.] Vol. 1

B5判・322頁・2,800円

アカデミック・ジャパニーズ（学校で使う日本語）の基礎を培うことを目的とし、大学や専門学校での活動を主な会話場面とした初級日本語教科書。基礎的文法力と共に、コミュニケーション能力、社会言語学的能力の養成と、音声言語理解能力が獲得できるよう編集した好評テキストの改訂新版。
〔2002〕978-4-8158-0425-1

名古屋大学日本語教育研究グループ編

A Course in Modern Japanese
[Revised ed.] Vol. 2

B5判・336頁・2,800円

アカデミック・ジャパニーズ（学校で使う日本語）の基礎を培うことを目的とし、大学や専門学校での活動を主な会話場面とした初級日本語教科書。基礎的文法力と共に、コミュニケーション能力、社会言語学的能力の養成と、音声言語理解能力が獲得できるよう編集した好評テキストの改訂新版。
〔2002〕978-4-8158-0426-8

名古屋大学日本語教育研究グループ編

A Course in Modern Japanese
[Revised ed.] Vol. 1 《CD》

A5判・CD 3枚組・4,800円

初級日本語教科書に準拠した音声教材で、Pronunciation, Dialogue, Drill, Aural Comprehension を収録し、とくに発音の導入および会話、数字の聞き取りなど豊富なリスニングの練習問題をもりこんだ。独習者にも役立つ、教科書には掲載していない Aural Comprehension のスクリプト付。
〔2002〕978-4-8158-0432-9

名古屋大学日本語教育研究グループ編

A Course in Modern Japanese
[Revised ed.] Vol. 2 《CD》

A5判・CD 3枚組・4,800円

初級日本語教科書に準拠した音声教材で、Pronunciation, Dialogue, Drill, Aural Comprehension を収録し、とくに発音の導入および会話、数字の聞き取りなど豊富なリスニングの練習問題をもりこんだ。独習者にも役立つ、教科書には掲載していない Aural Comprehension のスクリプト付。
〔2002〕978-4-8158-0433-6

名古屋大学日本語教育研究グループ編

現代日本語コース中級Ⅰ

—A Course in Modern Japanese Vol. 3—

B5判・348頁・2,800円

名古屋大学言語文化部日本語学科の多年の研究と実践に基づき作られた留学生のための日本語中級テキストであるが、留学生に限らず日本語を学ぶ全ての人にとって最良の中級教材。話すことを中心に編集された。前掲 A Course in Modern Japanese Vol. 1, Vol. 2 の続刊。
〔1988〕978-4-8158-0101-4

名古屋大学日本語教育研究グループ編

現代日本語コース中級Ⅱ

—A Course in Modern Japanese Vol. 4—

B5判・330頁・2,800円

名古屋大学言語文化部日本語学科の多年の研究と実践に基づき作られた外国人のための日本語中級テキスト。ことばの持つ機能を重視し、実際の場面での円滑なコミュニケーションを支える口頭表現能力を養成することを目的として作られている。
〔1990〕978-4-8158-0127-4

名古屋大学日本語教育研究グループ編

現代日本語コース中級Ⅰ〔録音テープ〕

—A Course in Modern Japanese Vol. 3—

B6判・C-60×2, C-45×1・7,000円

〔目次〕第1課「たのむ」、第2課「さそう・うける」、第3課「さそう・ことわる」、第4課「許可をもらう・許可する」、第5課「ことづける」、第6課「たのまれたことを伝える」、第7課「考えを言う」、第8課「助言する」、第9課「申し出る」。

〔1990〕978-4-8158-0151-9

名古屋大学日本語教育研究グループ編

現代日本語コース中級Ⅱ〔録音テープ〕

—A Course in Modern Japanese Vol. 4—

B6判・C-45×2, C-90×1・7,000円

〔目次〕第10課「感謝する」、第11課「ほめる・けんそんする」、第12課「文句を言う」、第13課「あやまる」、第14課「なぐさめる」、第15課「別れを告げる」、第16課「満足する・後悔する」、第17課「賛成する・反対する」、第18課「注釈する」。

〔1990〕978-4-8158-0139-7

名古屋大学言語文化部日本語学科編

現代日本語コース中級Ⅰ〔聴解ワークシート〕

A4判・238頁+テープ (C-46×1)・5,000円

本書は『現代日本語コース中級』所収の「聞く練習」のシラバスを配置し、あわせて学習と指導の方法を提示したワークシート。日本語学習者の中には、聴解能力がなかなか伸びないという悩みを持つものが多くいる。そのような学習者に対して、聞き取りのポイントや技術を提供する。

〔1992〕978-4-8158-0178-6

名古屋大学言語文化部日本語学科編

現代日本語コース中級Ⅱ〔聴解ワークシート〕

A4判・218頁+テープ (C-46×1)・5,000円

本ワークシートはⅠ・Ⅱともに予習・授業シート編 (1,000円)、復習シート編 (800円)、解答・スクリプト編 (1,000円)、ワークシートテープ (2,500円) から構成されている。それぞれ分売しており、学習に必要なものを選択できるよう配慮されている。

〔1992〕978-4-8158-0182-3

カッケンブッシュ寛子/尾崎明人/鹿島央/藤原雅憲/初山洋介編

日本語研究と日本語教育

〔品切〕A5判・340頁・6,500円

本書は、柴田武、国広哲弥、水谷修等22名による日本語学を中心とする言語の基礎研究とその応用としての日本語教育研究論集。前者は方言学、社会言語学、意味論等を、後者は日本語教育の課題、敬語研究の日本語教育への応用、学習者のストラテジー等を、様々な角度から考察する。

〔1992〕978-4-8158-0188-5

駒井明/T. H. ローリック共著

南山大学学術叢書

An Introduction to Japanese Kanbun

〔品切〕B5判・164頁・3,500円

本書は、現代日本語と日本の古典文法の基礎を修得した外国人及び留学生のための漢文理解のために作られた教科書である。また、日本人の英語力向上にも役立つものである。

〔1988〕978-4-930689-90-0

丹辺文彦/狩野昊子/中条直樹/木村崇/林田理恵著

ロシア語読本

—現代を読む—

〔品切〕B5判・112頁・1,800円

本書は、教材を現代のトピックに限って、生きたロシア語修得を目的とした読本。(1) 平易な教材を最初に置き大学1年後期から取組める、(2) 行間注、脚注を豊富にして独習者も使える、(3) 二色刷で見易く使い易い、(4) 朗読時のリエゾンを示す、等の配慮が凝らされている。

〔1989〕978-4-8158-0108-3

丹辺文彦／狩野昊子／中条直樹／木村崇／林田理恵著

ロシア語読本 [録音テープ]

—現代を読む—

[品切] C-90・3,000円

上の『ロシア語読本』をより効果的に学習するための録音テープ。[目次] 1. НА МОСКОВСКОМ АВТОЗАВОДЕ ИМЕНИ ЛЕНИНСКОГО КОМСОМОЛА / 2. ПИСЬМО / 3. ТАНЯ / 4. КАК МУЖ ДОМА ХОЗЯЙНИЧАЛ / 5. УРАГАН И БОЧКИ / 6. ЛИЦО / 7. ЛЕБЕДИНОЕ ОЗЕРО... [1990]

山口 巖著

ロシア中世文法史

[品切] A5判・304頁・5,000円

古スラヴ語の時期から現代ロシア文法の黎明期にあたるロモノソフの文法までの、およそ900年にわたるロシア語文法史＝研究史を、逐一原典に当たり、綿密な分析・解釈を加えることによって、初めて明らかにした画期的業績。資料篇として、グレーニングのロシア語文法を記載する。

[1991] 978-4-8158-0156-4

釘貫 亨著

近世仮名遣い論の研究

—五十音図と古代日本語音声の発見—

[RA叢書] A5判・296頁・5,800円

近世の仮名遣い論の核心には古代日本語音声の発見があった。抽象的な音声中心主義批判とは一線を画す、実証的な学説史の視点から、契沖・宣長などの巨人や知られざる音韻家・国学者の拓いた学理の地形を周到かつスリリングに辿る。未紹介資料『喉音仮名三異弁』『同弁正』の影印収録。

[2026 (2009)] 978-4-8158-1233-1

鈴木広光著

日本語活字印刷史

A5判・356頁・5,800円

多様な書字活動は、いかにして活字化されたのか。技術のみならず文字の性質や書記様式・言語生活等に注目し、嵯峨本など古活字版から、宣教師らによる明朝体活字の鑄造を経て、近代日本の活字組版まで、活字印刷の歴史をグローバルな視野で描きだす。ゲスナー賞「本の本」部門金賞受賞

[2015] 978-4-8158-0795-5

上山あゆみ著

統語意味論

B5判・302頁・5,400円

意味と構造は同時に決まる！ 文の意味とは何か、それはどのように生まれるのか。日本語を例に、統辞構造と意味が一体として産出されるシステムを初めて体系的に記述。テニヲハから否定形や疑問形まで、日常言語と計算可能性をつなぎ、言語研究にブレイクスルーをもたらす画期的著作。

[2015] 978-4-8158-0822-8